

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8

JAPAN

10

9

8

Tadama

7

6

5

4

3

2

1

m





花園
奇譚 夢見草二

福東子玉雄戲編

長崎町五丁目
天野屋惣

第三回

戀の孫てやあうとまとうあべ又名阿
ささきの夜のからよもつあり候ふつゝお
のまんくみうづぐらあ。猶のうち独りじ
つゆく案のまうばうつまうあざまつてや
つまうそつる癌の床乳母ひがひもまう

りとんよりうそひて 乳お乳も娘お嬢さんお嬢さんのまづく

冷さたせのをゆふとがあづくふれますと
駄だくに今度せんじまあそびがはなれ父ちちのゆふと
かみかみもあふふませどづくとひ爲つくまさら
まぞも昌さやざくさくとあづくかられすすと
囂うるよがやつせふきふやすへきとらふ
みががやすのびのびがびびくすくす
あくまくくーあくねねづくまくーくむを
あくまくまさせからくくはくくくからづく
やそかくにがくうかくままくわーりんりん
まくまくあくびびくくーのそよよあくま
くくびびかくわくくからづくららままく
そくくのゆゆのじかがくすととはくくく
よくくくくのゆゆのうちうちがどみゆゆ
がすよがくくのゆゆのゆゆととかくくく

うりふをもへ乳母（うぶ）がち實（じつ）あるとぞく廢（わい）
御（ご）のちりひとうちあせん（せん）とせうづ生（なま）
娘（むすめ）のうすうがくらよと名（な）字（じ）て名（な）也（や）

あひうめのうりとくとく
もふをびうりやふくかがわねでご
あきれやすうざくざくざく
ひよみあきれまく

まほろかとの結婚はあいへをえとや
すすき幸ひえとよ可もさへあ
をえきあをえとまえが病の本
とあらむづきの事あせまく
とゆとうやお女中うその幸えんとよお
とておれとおやえんさんよあせや
ますがあのふとよもやまきとま
いへをえのやうよもやまき

うべべりまへしらうとおもひまたとて
がとうよのあよひをへるを通せ
あざくめひもあらうほとひそめとお
きそひそとおひづ舟 舟 そよひそよ
いやよひそとで化者けいしゃ そよ
てかきくすす とくわくわくくわく あわせ
らきるとくわくのまへてひそめふと
あふとくわくわくもへとおひまえ

院イエアマレハアマレハ どもあらきキ が あうせ
りやヤ ます 舟 そよ と あどこのひそや
らふやラフヤ ともトモ もきみミ のよ 院 たとへ
おオ とト がガ きキ とト そソ すス そソ のたタ や
もあまアマ ばバ えエ まマ く おオ せセ やヤ ますと
たタ びビ のの あア すス 実ミ うウ がガ おオ そソ と
とト そソ とト 舟 そソ うウ がガ 石イシ のの 空スカイ 慢マタタク 氣キ

あふれかへり年もたぬ承てば勝
あそくありとてがまぐら
えぐのゆゑからひがるんのう
なげよくすかねとくべへどあよ
とあくやつことえりつよか
りともえのまごのあけくまよこぶ
みよきひつうのまもとすまくら
えのゆうとおびうてはるよつ
ラとあくことをもねうりきうべ
へりようちほく乳絆ちくわん
一あそびへかきうふこととひ
てああこととひづくふのよひへま
せうじづくますがひづらまくら
らきまくらひきよもみのひよのあ
きうと室うよまくらヨウラちうくよがあ
せやすくらまくらまくら

ヨリせんくらひあそびにまことう
まことをとどくと一もじよがよこす
のあきるまむすゞあすとりやわづ

第四回

お立ちそろのうちあるのあいよ
ともうとありまくるかそりがやまひ
のかくうあかのひ人のあつうとまく
ひそくうつゆあせんと乳母アガへ日ごと
する山の籠世カズシへを傳せりのうと
トとさんちんへあふとまくと人あ
りうめんべとくのこう十七八年と
まゑかくかわらと年叙シテがくうと
つたざらもかよびざく案シナめある
まきこもかよびざくとをとみのうと
うの深山ミタマツキ本うきとくの人のほとく

まわる利根も乳母がまのまつらうむ
とさどもかくじをまわるもまくべゆるも
くてもあとよすりてまわるも
駿びりりりりりりりりりりりりりりりり
くばみちとかくじやくもあふね
黙もろのまひもくちうだがひもと
をさうもくらうせきくさうもく
くともおおぐくらのまよくわうきくと

まわることりりりりりりりりりりりりりり
子山うきやまおよすりりりりりりりりりりりり
へたりまがまわりあきをまわりまると
よまくらくくらんをよくかずり
ゑくわますりんじんあまとてまう
ますとたうじよせきとかくすり
えあまつまくらんをくらうがむりひも
ゑくすかのまくらんじのからまつま

おどろく事のあらざりす
とあわびてのむかし

まことにやうやくおもひだされ
やうやくおもひだされ
とがんざーでござりますいとあや

まやめとくよかかづくごくもり
アキラムるわどうふくら
トモあさひがわめが
ヨウジとくふせんが
カのくとくのうじよ
ぎふくす
あすううちふか
あすううちふか
あすううちふか
あすううちふか

まごころありとよろこかものつま
まあるぬ糖^{トヤミカ}房のやうにゆきとど
みぬらひのくさくもりとどまむ野のあ
のうちゆといさんらくすまあくとよえ
るやあけまごんもくぬあざとと轟^{ハゲ}
ううえくあはのやうくうそと
もじのとあじらまくすも
うなたよくとゆくとゆくとゆくとゆくと

とく聲^{カラ}でくふきとよろこびて^署ま
くのやうあかざるぬめとまめを
朝^{アサ}くあらとやうくうとくうとく
きくとあらきくとまめのまく
きくとあらきくとまめのまく
あんうくうとまめのまくとくまく
せうくあらきくとまめのまくとく
ふと氣母^{トガシマ}とよろこびて^署ま

おうへ

完

二〇六

まくらに上りておひるはせとてよし
あひかみゆきやまとて名をつぐ
すあへてすまよじてくわんがゆえ
あへてよぞうくわる氣母カバへまよ
よのちすとつむうつまのざれ
びきりかかとあらわてたゞまや
うよをうひてとうきつけまくら

うきをばよの日よりきをてにの
のとくうちわが家内カミナへのはずハズお
うぬ氣母カバへまのとくわへりて核のね
どをもとあまがまともちやーかの人
へまおひくうちわめりり氣母カバへ
すよううびてかみが移かへてもあひま
ぎくわびのうちわめりり氣母カバへ
へよびきと移のあひくらもなま

おのづかうとくあつたまきりおとせ
くらべておづかうとくあつとくづきこてを
もあくうねあくうめとうじゆきゆく壁へ
おゆうぶの内よりかくすうづくべきす
てもおづひよあくぬやゑのつうあらわ
ときもびくや蟹もこきをあうことあ
たうづきうつむ母のこく蟹くがすす
くとよぐくよもとおづうをかきあ
づうときちからうをもおづうきて 乳ちちも浪
うんづくあそばれすーことくもきて
きくくくうづき 舟ふね乳母ちちもをくうき
ふねづくあそばれすーとおづくよ
母おやちようくうわらぎもえあくう舟ふねア
乳ちちもづくうをもあづくあくきま

第五回

ありひねすあらうやかのこもつてまち
のねそうぬくとけりれとへつうなる
くやよみづりんとお舟へ船とうきうえ
ややかの名なめなとあもつてよびよき
よそゑえううやこのこもくや冊子せくじ
むのものとキモきもしてこくわと
ちぐらちぐらやがつうやがつうこまよ
まあづつ日びうのちうみちあれあれ
とよまんとくまごのだよとくく
くくとてとて驚おどきとよそとぞかくづりく
乳母ちくぼとくすうづくままくと中なか舟ふねとよ
むとくらいえくく年としとままとくく
とくくとくくがうのくらざざすすよ
とくくくくくくななとくくよよくく
ままくくくくぐぐたとよよかかとくく

キナリ舟へ一そくあらへ画がびざうすせん

子
舟

ロトカんと充アラジダガラムテマツク
ミネシハタク舞のゆびもガキ

のズ
舟

ハラジドモト舟へ一そくあらま

アホ耳充アラシキニ

アラシキモテカウスヒトカウタシル兜

のズヘ左手充アラトカウアレ

キナリゲシのわんでごどくまとう
舟

アラカニヨアリよ充アラヒシタシのまどあ

ルトカニハヤキトナリけりせじやあよ

スミドリシタヒビゲンヒキモトね付

キナリトカニハキモトアガタモウラジ

のわうとスモキトナリモアリません

舟

アラヒシカウトアラモ充アラヒシモ

キナリゲシのわんでごどくまとう

ろざひともやあよえへとあまへどが
あくまへれとよかうとがひ
まことすゞもととて名すとがひ
もつれへ爲^{スル}のキモビンゲチのうま
てあのひげざくまつをきくらぐの
うらへまうたそんのうとせき
じととヤオとね^よのやへもふま
うととまつまつまつまつまつまづれ
みひげづとあくらうらまつとま
があくの自ごう可^ハまづとらゆき
きますゆとでござりまとまれ^ハ
イのまくらりとぞくらきめります
のとわちごうてヤカドンだとわひま
とくらむとくらむとくらむとくら
まつまつまつまつまづれ

舟^ヲホミ^シれて^ハ呪^{ホモ}の

うごがちうたらうあんとまのひご
1正ちがひへりてませんとあづくえ
ぐれども歩きうるけはぬをむ
の夜のことをさくしてざゆうとみべん
とあくくねま舟_{ヲホシ}それでくらふ
がちうくわるよもよへ子玉コシタマの娘
へううさ 夜も歩き無ムカシけはぬを
玉の夜の娘メイヨウとぞわるとこの娘ミツコ

とよんでみてゆるのとうくしてゆるの
こ乳母ミルモがさうとよんでへぢハヂのね哥ネコと
よニれでへぢハヂのうくへぢうて
きくすくへねどうりてつまう經キムへ
とえすテラボシモレね哥ネコととへきく
うよんへサスリ まありませんねの
あくとく通シテうんがふすああくわす
こがあのまくよーうんう金キンくわす

まことかくらあらへとヤナム
くらうアタマ乳くらうアヌ乳
まことかくらのすゞ舟くわくら人
たこゑでふざく舟くわく舟
もめくらをうのあひじせのれもめく舟
ふくく候候くらのえとよん候とち
ぐひく候よこととわくよくうよとう
えねよもすび候あわのあつ候まと

くらうをよみのくわべ乳くらう
くらんからまのあづげ舟くわく舟
うさくをくらうとあんざくよふ舟くわく舟
くらう候おやくらとめとめとめとめと
くらう候あらう候あらう候あらう候
とくらんからま候あらう候あらう候あらう候

とまきよつう乳母へりへりへ日毎よみんり
あくらうがあの口みちよそむくらむの
あくらづくまとまうひくらうらうよそ
やぐ人の名の志へてあくべりや
のゆうべくづきてうくさんとつこと
まことあくたむちよ中よハ往文一毛とく
えあかすりに嘗よてせしとせしとせ
のあくくづくづくわむかひよびう

てのうべでとくらくくくくうくづくも
あくらふんくくくわよまくとがりとく
りりとまく經文とよく三三く表事よ
あそくく姓名とむがくまくく和
よてうきつナあくらづくとせどよ
わらわむまくばくのくのたまくあとくづく
よまくべーとかの二ふとくくよつてミ
よくくよくとくわくをくもくちの

さよ人あうとうをとあらへとよび
ときやつるのへがまよすみのちや
川のきよよもあらん

